

[115]語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1448720>

出版情報：語文研究. 115, 2013-06-07. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学会彙報

▼平成二十四年度 卒業論文・修士論文題目

学 部

太宰治「きりぎりす」論

熊本千晶

宮沢賢治『ガドルフの百合』論

— 童話作品としての意義 —

貞方彩那

志賀直哉における「正義」について

— 『正義派』を中心に —

高橋睦美

三島由紀夫「英霊の声」論

田中雄大

有島武郎「一房の葡萄」考

中村晶子

山川方夫研究

野田幸里

川端康成「水月」論

野見山素

坂口安吾『桜の森の満開の下』論

松尾梨香子

梶井基次郎の死生観

— 「のんきな患者」を中心に —

宮本望美

平安文学における猫

— 『源氏物語』の唐猫を中心に —

嘉村玲子

藤原定家歌論における「新しき心」について

合原幸志

『伊勢物語』考 — 構成における一考察 —

中村智佳

鳥山石燕の妖怪版本について

— 妖怪画に潜む謎をめぐって —

島山勇樹

江島其磧の気質物について — 「かたぎ」の意味するもの —

小野 澪

近世における楠正成像について

菅 さやか

江戸時代における貧福観 — 秋成「貧福論」の位置付け —

吉田 宰

沖縄県粟国村の方言の特徴について

— 西・浜集落の授受表現を通して — 山城恒平

中世から近世における不定語の変化について

— イカニ系不定語から「どう」への移行を中心に —

橋川梨恵

「マダ」「イマダ」について

松岡真貴子

修 士

千鳥考 — 歌語と季節の結びつき — 河内美香

『在明の別』論

— 天女の影で生きること — 小松明日佳

源氏物語の雨 — 葵巻・滯標巻の哀傷 —

二宮愛理

七代目市川団十郎の研究

工藤いずみ

肥筑地方の終助詞体系に関する考察

村井香織

— 福岡と諫早のタイとバイ —

日本語と朝鮮語アクセントの対照研究

— 北部琉球方言を軸に —

金 アリン

근세일본의 대중소설가, 짓펜샤 이쿠 작품 선집

日本語文法史研究 1

康 志賢
青 木 博 史

▼受贈図書(二〇二二年十月～二〇二三年三月)

日本語音韻史の研究

高山 倫明

上田秋成…絆としての文芸

飯倉 洋一

일본의 대중문예의 시원 : 에도회작과 짓펜샤 이쿠 Edo Gesaku &

Zippensya Ikkū : the commencement of Japanese popular literature

康 志賢

百人一首宗祇抄の研究

澤山 修

山口大學所蔵和漢古典籍分類目録

尾崎 千佳

散木奇歌集疏註 第一春部・第二夏部

久保 稔

日本古典文学読解考…『万葉』から『しのびね』まで

後藤 康文

長嶋有／長瀬由紀峰編 法政大学大学院人文科学研究科日本

文学専攻「作家特殊研究」 研究冊子刊行委員会

江戸・明治歌舞伎役者墳墓一覽

光延 真哉

三江学院・熊本県立大学中日国際日语研究论坛・熊本県立大

学・三江学院日中国際日本語研究フォーラム予稿集

熊本県立大学

〒八二一八五八一 福岡市東区箱崎六一一九一

九州大学文学部内九州大学国語国文学会

(Tel・Fax：〇九二一六四二一三九五)

ホームページアドレス

<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/japano/>

(研究室のアドレスも記していますので、学会関係・住所変更等の各種連絡にも御利用下さい。)

《規 定》

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に寄稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員四千円(各号二部配布)、通常会員二千円(各号一部配布)とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。